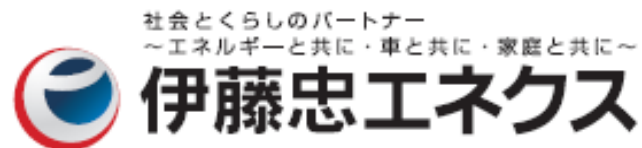


# 平成19年3月期 中間決算説明会



日時:平成18年11月16日(木)  
会場:経団連会館  
(クリスタルルーム)



# CONTENTS

## 平成19年3月期中間決算説明

取締役(兼)常務執行役員 CFO  
有満 修司

## 平成19年3月期(通期)の見通し

代表取締役社長  
小寺 明

# 平成19年3月期中間決算説明

連結決算概要  
連結損益計算書  
連結貸借対照表  
連結キャッシュフロー計算書  
油種別販売数量(連結)  
セグメント別情報(連結)  
    産業マテリアル事業  
    カーライフ事業  
    ホームライフ事業

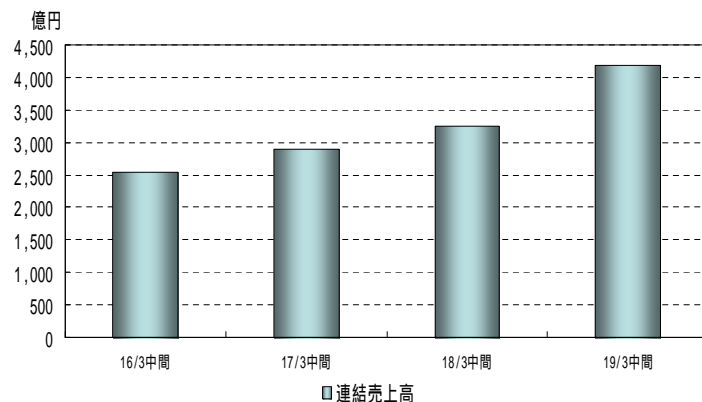
# 平成19年3月期中間 連結決算概要

## 連結業績

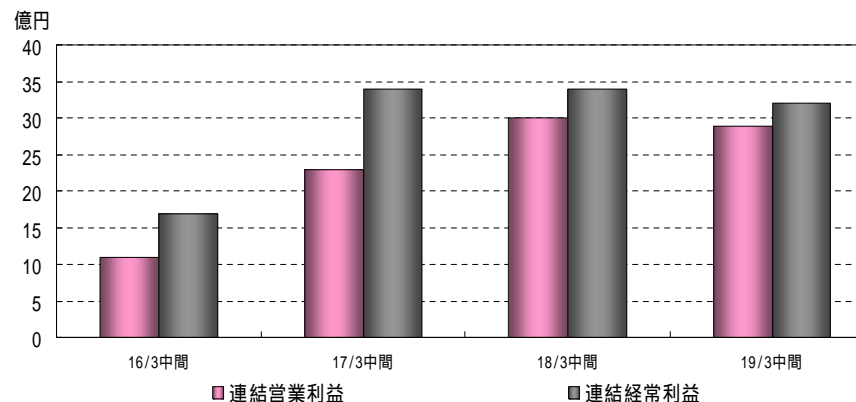
(単位:百万円)

	平成18年 3月期1Q	平成19年 3月期1Q	増減率	平成18年 3月期2Q	平成19年 3月期2Q	増減率	平成18年 3月期中間	平成19年 3月期中間	増減率
売上高	155,343	202,705	30.5%	170,700	216,940	27.1%	326,043	419,645	28.7%
営業利益	1,593	872	45.%	1,462	2,033	39.1%	3,055	2,905	4.9%
経常利益	1,932	1,132	41.4%	1,548	2,165	40.0%	3,480	3,297	5.3%
当期純利益	849	571	32.8%	660	1,053	60.0%	1,509	1,624	7.6%

## 売上高の推移(連結)



## 営業利益・経常利益の推移(連結)



# 平成19年3月期中間 連結損益計算書

(単位:百万円)

	平成18年3月期中	平成19年3月期中	増減額	増減率
売上高	326,043	419,645	93,601	28.7%
営業利益	3,055	2,905	150	4.9%
経常利益	3,480	3,297	182	5.3%
当期純利益	1,509	1,624	115	7.6%

## 増減要因

### 【売上高】

売上単価の上昇及び販売数量の増加。

### 【営業利益】

マージンの圧縮。

### 【経常利益】

営業利益減。

### 【当期純利益】

特別損失(投資有価証券売却損、事業整理損等)の減少。

## 平成19年3月期中間 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	H18年3月期	H19年3月期中間	増減額
流動資産	131,036	119,724	11,312
固定資産	104,583	106,033	1,450
流動負債	123,395	112,404	10,990
固定負債	33,216	33,854	637
純資産	79,007	79,497	490
負債及び資本合計	235,619	225,757	9,862

流動資産・流動負債の変動要因は、季節要因による売掛金、買掛金の減少による。

有利子負債469億円(前期末比214百万円の減少)。

# 平成19年3月期中間 連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	H18年3月期中間	H19年3月期中間	増減額
営業活動 C F	1,486	2,103	3,589
投資活動 C F	5,527	3,662	1,865
フリー C F	4,041	5,766	1,725
財務活動 C F	2,085	1,503	582
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,070	19,563	2,507

【営業活動 C F】

原油価格上昇による売買所要資金の増加。

【投資活動 C F】

有価証券等の投資の減少。

【財務活動 C F】

有利子負債の返済資金の減少。

## 油種別販売数量(連結)

(単位:千kl、千トン)

油種	H18年3月期中間	H19年3月期中間	前期比(増減率)
ガソリン	1,419	1,568	10.5%
灯油	439	492	12.0%
軽油	1,223	1,243	1.6%
重油	735	904	23.0%
燃料油合計	3,816	4,207	10.2%
アスファルト	111	102	8.7%
LPガス	482	483	0.3%
総合計	4,409	4,792	8.7%

【ガソリン】

小倉興産エネルギーや、大型セルフの増販が寄与。

【重油】

昨年10月より加わった小倉興産エネルギー(株)の寄与。(204千kl)

【LPガス】

販売体制の強化により堅調に推移。

【アスファルト】

公共事業の減少。



# セグメント別情報(連結)

(単位:百万円)

		産 マ テ リ ア ル	業 カ ー ラ イ フ	ホ ー ム ラ イ フ
売 上 高	H17年3月期中間	38,809	205,996	34,630
	H18年3月期中間	48,303	238,002	39,737
	H19年3月期中間	56,534	315,207	47,903
	H18年比増減額	8,231	77,205	8,165
	H18年比増減率	17.0%	32.4%	20.6%
営 業 利 益	H17年3月期中間	495	2,468	801
	H18年3月期中間	1,018	3,740	5
	H19年3月期中間	853	3,062	508
	H18年比増減額	165	678	513
	H18年比増減率	16.2%	18.1%	

【産業マテリアル事業】

LNGや電力への転換により販売数量が鈍化。

【カーライフ事業】

全油種において販売数量が増加したものの、マージン圧縮。

【ホームライフ事業】

マージンの改善により収益改善。

## セグメント別情報 - 産業マテリアル事業

実績

(単位:百万円)

	H18年3月期中間	H19年3月期中間	前期比	
	金額	金額	増減額	増減率
売上高	48,303	56,534	8,231	17.0%
営業利益	1,018	853	165	16.2%

販売数量の減少とマージンが圧縮。

販売数量(連結)

(単位:千kl、千トン)

	H18年 3月期中間 数量	H19年 3月期中間 数量	前期比 増減率
重油	496.4	436.6	12.0%
アスファルト	111.3	101.5	8.8%

「脱石油」による燃料転換や公共事業の減少の影響。

# セグメント別情報 - カーライフ事業

## 実績

(単位:百万円)

	H18年3月期中間	H19年3月期中間	前期比	
	金額	金額	増減額	増減率
売上高	238,002	315,207	77,205	32.4%
営業利益	3,740	3,062	678	18.1%

4月～7月の市況低迷が影響したが、8月以降改善。

## 販売数量

(単位:千kl、千トン)

	H18年 3月期中間 数量	H19年 3月期中間 数量	前期比 増減率
ガソリン	1,403.3	1,547.4	10.3%
灯油	309.1	387.5	25.4%
軽油	1,050.2	1,098.4	4.6%
重油	233.8	463.2	98.1%

## 販売施設数

(単位:カ所)

	H19年 3月期	H19年 3月期中間	前期比
給油所	2,157	2,150	7 (43+36)
(内、PB)	417	413	4
(内、セルフ)	306	340	34

10月末にはヤナセ石油と新規系列化により  
2,221カ所に急増！！

## セグメント別情報 - ホームライフ事業

### 実績

(単位:百万円)

	H18年3月期中間	H19年3月期中間	前期比	
	金額	金額	増減額	増減率
売上高	39,737	47,903	8,166	20.6%
営業利益	5	508	513	

マージン確保とコスト削減。

### 販売数量

(単位:千kl、千トン)

	H18年 3月期中間 数量	H19年 3月期中間 数量	前期比 増減率
LPガス	418.1	428.8	2.6%
灯油	35.2	30.0	14.8%

### LPガス消費者軒数

(単位:軒)

	H18年 3月期	H19年 3月期中間	前期比
直売軒数	267,837	284,287	16,450

上期の小売営業権買収軒数は約8,400軒。  
下期の計画は4,000軒。

## 平成19年3月期の見通し

中期ビジョン「創生2008」進捗状況  
産業マテリアル事業の見通し  
カーライフ事業の見通し  
ホームライフ事業の見通し  
新エネルギー開発への取組み  
油種別販売数量予想  
平成19年3月期業績予想  
その他取組み  
配当政策

# 中期ビジョン「創生2008」進捗状況

中期ビジョン「創生2008」  
連結業績目標と進捗状況

3年目を迎え、順調に推移

スローガン

変える

極める

創る

(単位:億円)

	2008年度 目 標	H18年3月期 実 績	H17年3月期 実 績
売 上 高	7,090	7,719	6,352
営 業 利 益	106	68	68
経 常 利 益	108	86	86
当 期 純 利 益	60	47	41
ROA(総資本経常利益率)	4.7%	3.7%	3.8%
総 資 産	2,280	2,356	2,302

経営理念

社会とくらしのパートナー ~ エネルギーと共に・車と共に・家庭と共に ~

事業領域

社会インフラとしてのエネルギーから、人を育み、くらしと心を豊かにするエネルギーまで

# 産業マテリアル事業の見通し(平成19年3月期)

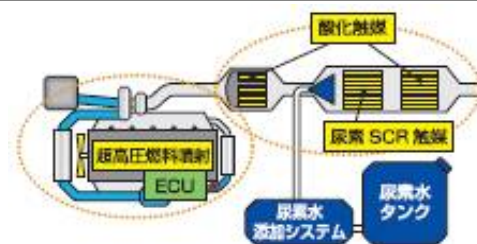
産業用燃料の販売量を拡大しながら、ソリューション事業の取組み強化と  
エネルギーサービス事業を新たな収益の柱に

産業用燃料の新規取引先の獲得  
LNG(天然ガス)の取引先開拓  
新商品事業の積極展開

(大型トラックの排ガスを除去する尿素水 他)

事業者向けカードビジネスによる  
販売数量の拡大

工業ガス事業の強化



尿素水SCRシステム



連結業績予想

(単位:百万円)

	H18年3月期中間実績	H19年3月期中間実績	H19年3月期通期予想
売上高	48,303	54,729	105,000
営業利益	1,018	816	1,250

# カーライフ事業の見通し(平成19年3月期)

系列スタンドの大型セルフ化とM&A戦略で販売量の拡大

新規系列化、大型セルフによる  
販売量拡大  
投資効果のあるM&Aで販売量拡大  
カード戦略拡大  
(お客様の固定化)  
車関連事業の収益確保  
災害対応CSの拡充



カーエネクス  
災害対応ステーション



(単位:百万円)

連結業績予想

	H18年3月期中間実績	H19年3月期中間実績	H19年3月期通期予想
売上高	238,002	315,207	629,000
営業利益	3,740	3,062	7,550



# ホームライフ事業の見通し(平成19年3月期)

新販社体制による地域戦略の強化

M & Aによる事業基盤の拡大  
都市ガスや電力とのベストミックス提案  
HL九州と(株)イデックスガスとの  
合併準備順調  
LPガス車の販売による低公害車の普及



ヒュンダイグレンジャー  
LPI車を販売

連結業績予想

(単位:百万円)

	H18年3月期中間実績	H19年3月期中間実績	H19年3月期通期予想
売上高	39,737	47,903	108,000
営業利益	5	508	2,900

# 新エネルギー開発への取組み

次世代エネルギーの普及と事業化への布石

## DME (ジメチルエーテル)自動車普及推進委員会 ～ DME自動車開発・供給インフラ・燃料品質の検証

(参画企業:三菱ガス化学、岩谷産業、JFE・HD、伊藤忠商事、  
いすゞ中央研究所、豊田通商 他11社)

## 水素エネルギーの多目的利用の検討 ～ 相模原水素コミュニティ研究会への支援

(参画企業:神奈川県、相模原市、シナネン、栗田工業、伊藤忠商事、  
東芝 他5社)

## バイオマス燃料への取組み

(提携予定企業:伊藤忠商事  
及び伊藤忠グループ企業)

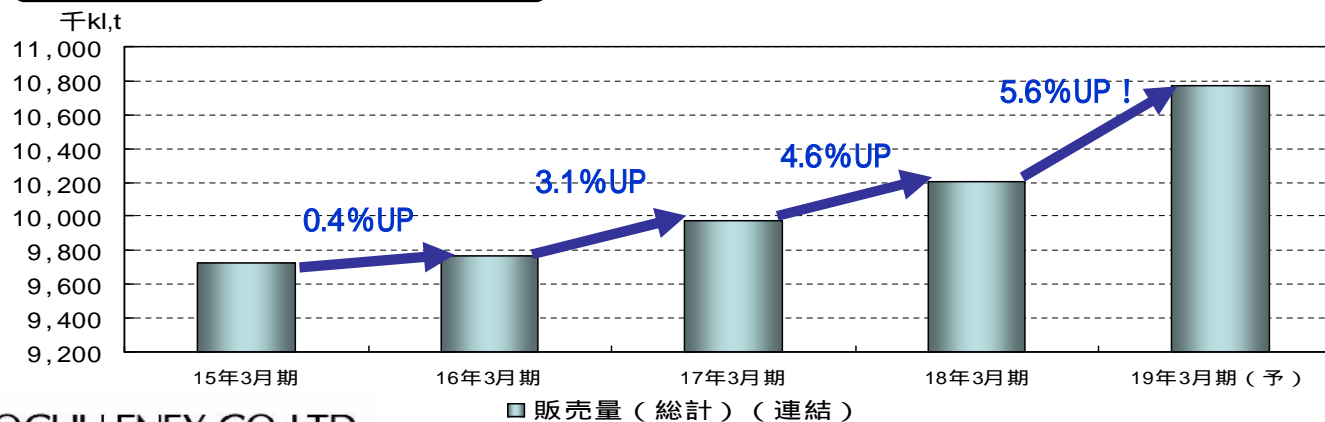


# 油種別販売数量予想(連結)

(単位:千kl、千トン)

油種	H18年3月期	H19年3月期	前期比(増減率)
ガソリン	2,889	3,200	10.8%
灯油	1,741	1,800	3.4%
軽油	2,455	2,500	1.8%
重油	1,810	2,000	10.5%
燃料油合計	8,895	9,500	6.8%
アスファルト	266	270	1.5%
LPガス	1,041	1,000	3.9%
総合計	10,202	10,770	5.6%

## 全販売数量の推移



# 平成19年3月期 通期業績予想

## 連結業績予想

(単位:百万円)

	H18年3月期実績	H19年3月期予想	増減額	増減率
売上高	771,894	845,000	73,106	9.5%
営業利益	6,824	7,100	276	4.0%
経常利益	8,576	8,800	224	2.6%
当期純利益	4,661	4,800	139	3.0%

## 個別業績予想

(単位:百万円)

	H18年3月期実績	H19年3月期予想	増減額	増減率
売上高	652,435	694,000	41,565	6.4%
営業利益	4,734	3,500	1,234	26.1%
経常利益	6,080	4,400	1,680	27.6%
当期純利益	3,589	3,100	489	13.6%

## その他取り組み

会社法施行に伴う、内部統制システムの構築を推進

コーポレートガバナンスの強化

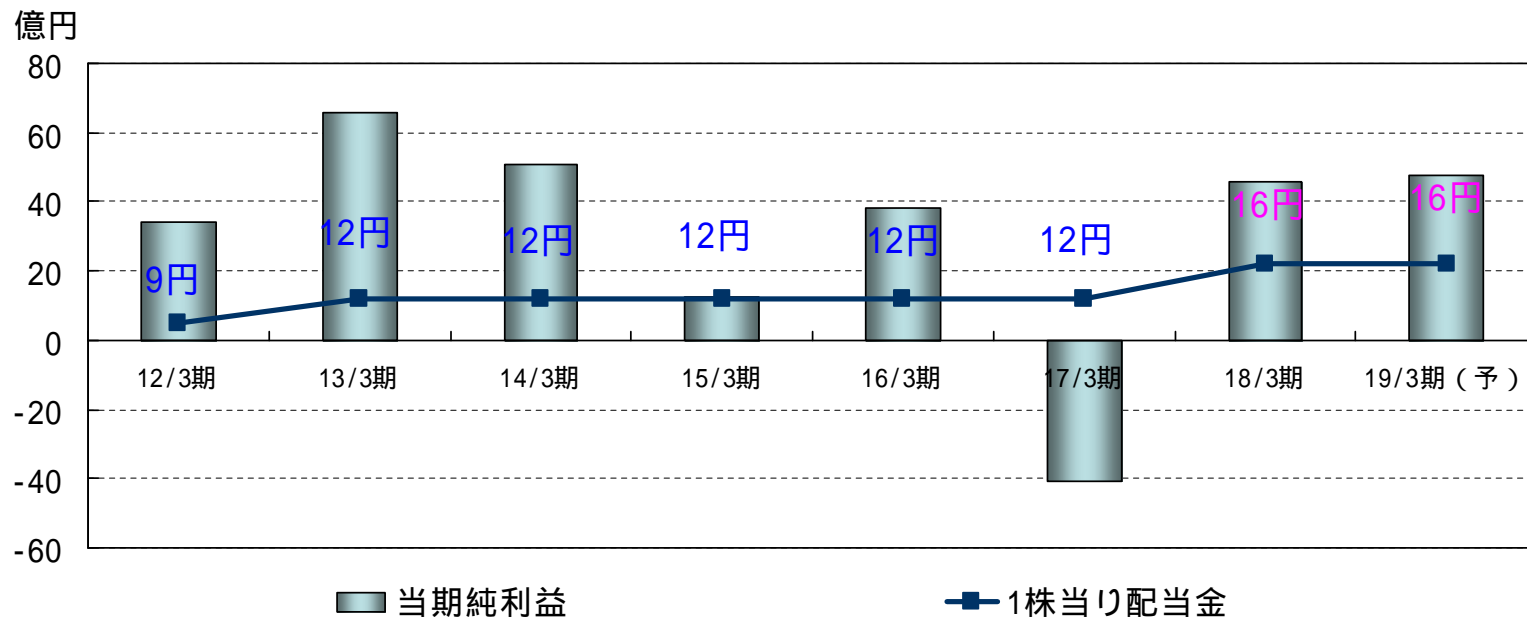
“安心・安全”をスローガンとした保安対策をはじめ  
CSR・コンプライアンス強化

8月に発行されたANNUAL & CSR・コンプライアンスREPORT2006。  
“安全・安心”をモットーとした当社の活動報告の詳細が掲載されています。



## 配当政策

経営環境の変化に対応した対策を着実に実行し、事業収益基盤の強化を図ることによる安定配当の実施  
H18年3月期より、1株あたり配当金16円(前期比4円増)を継続



# ご清聴ありがとうございました

## ご注意

当資料のいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。  
また、当社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。

投資を行う際には、必ず当社が発行する有価証券報告書等の財務資料をご覧頂いた上で、投資家ご自身の判断でなされるようお願い致します。また、内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の実績等に関する見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。

従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

## 問合せ先

今後、当社に関するご質問、お問合せ等がございましたら、下記の担当者までご連絡ください。

伊藤忠エネクス株式会社

IR広報室 高橋

TEL 03-5436-9356

FAX 03-5436-8235

メール [itcfhome@itcenex.com](mailto:itcfhome@itcenex.com)



## エネルギーをつないでいます。

わたしたちがお届けするのは、  
ガソリン、灯油、軽油、重油、L Pガスなどのエネルギーと、  
人々の暮らしと社会を豊かにするための提案です。  
そして、わたしたちは、「安全」と「安心」を約束する  
「複合エネルギー企業」として、  
快適な暮らしと社会の実現に向けて貢献していきます。



ITOCHU ENEX CO.,LTD.